

ISSN 1345-8329

日本地理学会発表要旨集

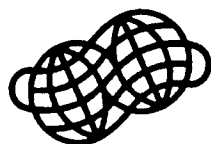
Proceedings of the General Meeting of the Association of Japanese Geographers

No.71

2007年春季学術大会

3月20日～3月22日

東洋大学



社団法人日本地理学会

2007

目 次

2007年日本地理学会春季学術大会プログラム（地理学評論第71巻3号の抜刷）

シンポジウム（3月20日～21日）

- I. 日本地理学会災害対応委員会公開シンポジウム 2
「災害からの復興－地域復興の意義と備え－」
(3月20日, 13:00～17:00, 第1会場)
- II. デジタル地図学博物館の形態と運営、活用のあり方 8
(3月20日, 9:00～12:00, 第2会場)
- III. 経済成長期における中国土地利用変化の地域性と特質 14
－日本との比較の視点から－
(3月20日, 9:30～12:00, 第3会場)
- IV. 時系列地理情報を使った景観変化の研究－その展開と可能性－ 18
(3月20日, 13:00～17:00, 第2会場)
- V. 「エスニシティの地理学」の課題と方向 25
(3月21日, 9:00～12:30, 第2会場)

一般研究発表（3月20日～21日）

- 101～105（第1会場）地理教育 34
- 301～316（第3会場）行政、交通、人口、GIS 39
- 401～430（第4会場）都市、海外、産業 55
- 501～524（第5会場）農業、文化・社会、認知・行動 85
- 601～639（第6会場）地形、植生 109
- 701～735（第7会場）水文、気候、海外、環境 148

ポスター発表（3月20日～21日）

- P801～P853(第8会場) 184
(内容説明 3月20日、12:00～12:30 および 17:00～17:30)

巡検（3月22日）

- 第1班 大都市近郊における里山保全と農村環境の持続性を考える 238
－横浜市青葉区寺家地区の里山と谷戸のルーラリティをあるく・みる－
- 第2班 東京大空襲の被災樹木を訪ねる－都市の緑と戦争を考える－ 240

この発表要旨集71号は2007年1月11日までに受付けた版下原稿を写真製版して印刷したものです。
2007年1月 日本地理学会集会専門委員会

2007年春季学術大会プログラム

2007 年日本地理学会春季学術大会プログラム

1. 大会日程

3月19日(月)	14時30分～16時30分	総会・代議員会(6号館2階6204教室)
3月20日(火)	9時00分～12時00分	シンポジウムⅡ(デジタル地図学博物館の形態と運営, 活用のあり方)(第2会場)
	9時30分～12時00分	シンポジウムⅢ(経済成長期における中国土地利用変化の地域性と特質——日本との比較の視点から——)(第3会場)
	9時00分～17時00分	口頭発表
	11時00分～17時30分	ポスター発表(第8会場) (説明・討論は12時から12時30分および17時から17時30分の間に行います)
	13時00分～17時00分	シンポジウムⅠ(災害からの復興——地域復興の意義と備え——)(第1会場)(東洋大学後援, 公開シンポジウム)
	13時00分～17時00分	シンポジウムⅣ(時系列地理情報を使った景観変化の研究——その展開と可能性——)(第2会場)
	18時00分～20時00分	表彰式・懇親会(6号館B1F食堂)
3月21日(水)	9時00分～12時30分	シンポジウムⅤ(「エスニシティの地理学」の課題と方向)(第2会場)
	9時00分～17時10分	口頭発表
	9時30分～12時00分	地理教育公開講座(第1会場)
	11時00分～15時00分	ポスター発表(第8会場)
	13時00分～13時50分	会長講演(井上円了ホール)
	14時00分～17時00分	研究グループ
3月22日(木)	9時30分～17時00分	巡検

2. 大会会場

東洋大学(6号館) 〒112-8606 文京区白山5-28-20

渡辺満久 電話 03-3945-8288 e-mail:manqq@toyonet.toyo.ac.jp

大会当日の連絡は, 大会本部(電話 090-6178-3993)

3. 会場への交通案内

都営三田線「白山駅」・東京メトロ南北線「本駒込駅」から徒歩5分(次ページの図あるいは<http://www.toyo.ac.jp/campus/hakusan.html> 参照)。なお, 駐車場はありませんので, 車での御来校はおやめ下さい。

4. 大会参加の諸費用

大会参加費: 正会員 2,000 円

正会員(院生・学部学生) 1,500 円

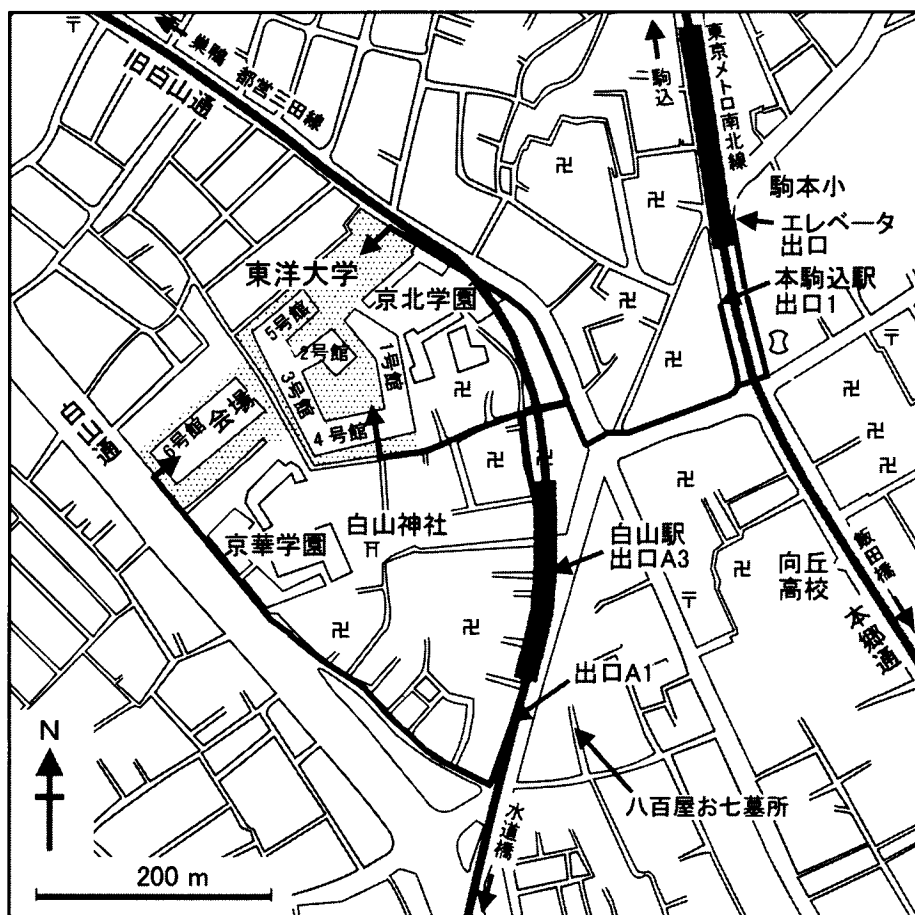
一般(非会員) 2,500 円

懇親会費: 5,000 円(ただし, 院生・学部学生 3,000 円)

巡検参加費: 500 円

発表要旨集: 2,500 円 会場受付で販売します。

大会参加費と懇親会費の領収証発行は省略し, 参加証(名札)の発行をもって代えます。特に, 領収証を必要とされる方は, 受付手続きの際にお申し出下さい。



5. 食事の案内

20日は、会場となる6号館地下食堂が1件営業しておりますが混雑が予想されます。会場周辺には多数の飲食店がありますので、大会受付にて御案内いたします。

6. 巡検の集合時間・場所

第1班 大都市近郊における里山保全と農村環境の持続性を考える——横浜市青葉区寺家地区の里山と谷戸のルーラリティをあるく・みる

3月22日(木) 集合 9時30分 東急田園都市線「市が尾」駅東口広場、雨天中止。

第2班 東京大空襲の被災樹木を訪ねる——都市の緑と戦争を考える

3月22日(木) 集合 9時 浅草寺本堂前広場、小雨決行。

7. 口頭発表について

発表番号の*印は液晶プロジェクター使用を、人名の*印は口頭発表者を示します。発表時間は討論・交替時間を含めて19分とし、1鈴12分、2鈴15分(発表終了)、終鈴19分(討論終了)となります。発表時間枠が固定されていますので、発表者および座長は発表時間を厳守して下さい。

なお、液晶プロジェクターの使用者は、Windows版のPowerPointで正常に表示されることを確認したファイルを、USBフラッシュメモリー(Windowsで読み込めるFormat)に保存して御持参下さい。午前、午後のそれぞれのセッション開始の30分前までに、会場の演壇まで上記メディアを持参し担当の者に渡して下さい。

8. ポスター発表について

ポスター発表は、3月20日（火）11時～17時30分と、21日（水）11時～15時において、第8会場で行います。発表者による説明・討論は3月20日（火）12時～12時30分と、17時～17時30分に行われますので、多くの会員の参加を希望します。

ポスター発表者は、3月20日（火）11時までに、第8会場の指定された場所でポスターの掲示を終了して下さい。ポスターのサイズは90×180 cmです。当日の掲示の方法は会場係の指示に従って下さい。設置に必要なテープ・鋏類は、用意しております。

発表者は3月20日（火）12時～12時30分、17時～17時30分の間に少なくとも20分間は各自の展示の場所で、質疑・討論に対応して下さい。説明・討論時間は上記時間内でなるべく長く取ることを希望します。展示品は3月21日（水）15時から16時の間に各自の責任で片づけて下さい。

9. 出張依頼状・発表要旨集について

- (1) 出張依頼状の必要な方は、1. 出張期間 2. 依頼状提出先 3. 依頼状送付（返信）先を明記し、切手を貼付した返信用封筒を同封の上、学会事務局へお申し込み下さい。
- (2) 定期購読をされている方で発表要旨集が、3月13日までに未着の場合は学会事務局へお申し出下さい。

10. 地理教育公開講座委員会主催「第12回地理教育公開講座 激動する東ヨーロッパの現在と未来」について

日時：3月21日（水）9時30分～12時00分 会場：第1会場
山本 茂（法政大）：ポーランドに明日はあるか？——移行期東欧の社会地理——
森 和紀（日本大）：東ヨーロッパの水環境——水質と水利用の現状、変化、課題——
問合せ先：竹内裕一 千葉大学教育学部 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 電話 043-290-2546
e-mail:htakeuchi@faculty.chiba-u.jp

11. 大会役員

大会委員長：北村嘉行，実行委員長：小俣利男，総務・会計：渡辺満久，会場・受付：小林正夫，懇親会・広報：小俣利男・渡辺満久

12. 口頭発表座長表

	3月20日（火）午前	3月20日（火）午後	3月21日（水）午前	3月21日（水）午後
第1会場		シンポジウムⅠ	地理教育公開講座	101～103 大西宏治 104～105 西脇保幸
第2会場	シンポジウムⅡ	シンポジウムⅣ	シンポジウムⅤ	
第3会場	シンポジウムⅢ	301～303 美谷 薫 304～306 中牧 崇 307～309 中川聡史 310～312 長沼佐枝	313～314 宮澤 仁 315～316 中山大地	
第4会場	401～403 由井義通 404～406 田原裕子 407～409 根田克彦	410～411 菊地俊夫 412～413 池谷和信 414～415 吉田道代 416～418 土居晴洋 419～421 中辻 享	422～423 安倉良二 424～425 近藤章夫 426～428 加藤幸治 429～430 中澤高志	
第5会場	501～502 荒木一視 503～504 川久保篤志 505～507 池永正人	508～510 小野寺 淳 511～513 荒山正彦 514～516 内田忠賢 517～519 矢ヶ崎典隆	520～522 落合康浩 523～524 若林芳樹	
第6会場	601～603 今泉俊文 604～606 鈴木康弘 607～609 中村洋介	610～612 瀬戸真之 613～615 荻谷愛彦 616～618 杉山悠然 619～621 長谷川裕彦	622～624 青木賢人 625～627 鈴木毅彦 628～630 堀 和明	631～633 沖津 進 634～636 水野一晴 637～639 宮城豊彦

第 7 会場	701～703 小野寺真一	708～710 大和田道雄	720～721 須貝俊彦	728～729 谷口智雅
	704～707 宮下雄次	711～713 高橋日出男	722～724 吉田圭一郎	730～731 相馬秀廣
		714～716 中川清隆	725～727 一ノ瀬俊明	732～733 菅 浩伸
		717～719 財城真寿美		734～735 堀 信行

春季学術大会における各研究グループの研究例会開催について

1. 日時および会場 3月21日（水）会場および時間は当日掲示します。

2. 集会および話題提供

地籍図類による景観復原研究グループ

土平 博（奈良大）・藤田裕嗣（神戸大）：中・近世都市，周防山口における地割分析と地籍図の利用——近世史料「坪附帳」の検討から

近代日本の地域形成研究グループ

水環境の地理学研究グループ

GIS 教育研究グループ

地方行財政の地理学研究グループ

高木彰彦（九州大）：長崎県壱岐市における合併後の庁舎建設構想について

持続的農村システム研究グループ

仁平尊明（筑波大）：北海道十勝平野における大規模畑作経営の特色とその維持要因——帯広市川西地区の事例

山本 充（埼玉大）：小規模家族農業経営の現代的意義——小農・兼業・プルリアクティビティ

菊地俊夫（首都大）：2007 年国際地理学会持続的農村システム会議について

観光地理学研究グループ

佐藤大祐（長崎国際大）：高原避暑地・雲仙における外国人集客圏と客層の変化

都市気候環境研究グループ

白 迎玖（東北公益文科大）：上海における夏季ヒートアイランド現象の観測と分析

中川清隆（立正大）：都市ヒートアイランド強度決定のためのバルク・スラブモデル構築の可能性について

離島地域研究グループ

高木 亭（立正大・非）：瀬戸真之（立正大）・山下太一（立正大・研）：三宅島における産業の復興状況について

橋村 修（総合地球環境科学研）：出漁基地としての東シナ海の離島とその変遷——回遊魚の道と離島

平岡昭利（下関市立大）：今後の研究グループの活動について

高齢者の地理学研究グループ

杉浦真一郎（名城大）：合併地域における介護保険運営に関する旧自治体間の差異——「介護保険事業状況報告」による合併前の事業特性の比較から

まちづくり・都市再生研究グループ

中欧研究グループ

伊藤徹哉（東洋大）・小原規宏（茨城大）：中央ヨーロッパ研究の成果と課題

環境地理教育研究グループ

情報地理研究グループ

加藤幸治（国士舘大）：企業論的視点からみた日本の情報化

中澤高志（大分大）：九州におけるインターネット関連産業とその経営者——大分県の事例を中心として

流通・消費の地理学研究グループ

末田智樹（中部大）：日本における百貨店業態の成立——昭和戦前期までのターミナルデパートの立地展開を手がかりに

岩間信之（関東学園大・非）：ファッションブランド企業の日本市場参入——Paul Smith の事例

地理教育理論研究グループ

中国地理研究グループ

産業経済の地理学研究グループ

松原 宏（東京大）：立地調整の経済地理学——理論と課題

濱田博之・與倉 豊（東京大・院）：日本工業の立地調整に関する経済地理学

ネイチャー・アンド・ソサエティ研究グループ

国際経営地理学研究グループ

第 1 日目 3 月 20 日（火） 午前

開始時刻	第 2 会 場	第 3 会 場
	シンポジウムⅡ デジタル地図学博物館の形態と運営、 活用のあり方 〔オーガナイザー〕 中山修一（広島経済大）・千歳壽一（千寿計画研究室）・小口 高（東京大）・浅野敏久（広島大） 開始時刻 9:00 〔座 長〕 浅野敏久（広島大）・中山修一（広島経済大） S201 9:00～9:10〔趣旨説明〕 中山修一*（広島経済大）・千歳壽一（千寿計画研究室）・小口 高（東京大）・浅野敏久（広島大）：デジタル地図学博物館の形態と運営、活用のあり方——シンポジウムの趣旨 S202 9:10～9:30 西川 治（東京大学名誉教授）：国立地図学博物館の夢と現実 S203 9:30～9:50 千歳壽一（千寿計画研究室）：国立地図学博物館設立運動の過去と現在 S204* 9:50～10:10 小口 高*・白石 陽・高橋昭子・佐藤英人・相良毅・岡部篤行（東京大）：地図画像を活用した東大空間情報科学研究センターの对外サービス S205 10:10～10:30 白石 陽*・小口 高・藤稿亜矢子・岡部篤行（東京大）・齊藤忠光（国土建設学院・非）：デジタル地図学博物館ポータルサイトのプロトタイプの構築 S206* 10:30～10:50 洪 恒夫（東京大）：ミュージアム、その活動の方向性と可能性 〔休 憩〕 10:50～11:00 〔総合討論〕 11:00～12:00 〔座 長〕 中山修一（広島経済大）・浅野敏久（広島大） 終了時刻 12:00	シンポジウムⅢ 経済成長期における中国土地利用変化 の地域性と特質 ——日本との比較の視点から—— 〔オーガナイザー〕 氷見山幸夫（北海道教育大・旭川校）・山下克彦（北海道教育大・札幌校）・土居晴洋（大分大）・季 増民（椋山女学園大） 開始時刻 9:30 〔座 長〕 山下克彦（北海道教育大・札幌校） 〔趣旨説明〕 9:30～9:35 季 増民（椋山女学園大）：「経済成長期における中国土地利用変化の地域性と特質——日本との比較の視点から」シンポジウム趣旨説明 S301* 9:35～10:15〔基調講演〕 氷見山幸夫（北海道教育大・旭川校）：CJLUC（日本・中国の土地利用・土地被覆変化に関する地域間比較研究）の研究成果と今後の展開 S302* 10:15～10:45 小野寺 淳（横浜市立大）：中国農村部の土地利用変化をめぐる諸作用——南京市郊外の事例から S303* 10:45～11:15 土居晴洋（大分大）：中国における市街地の空間的拡大と都市規模 S304* 11:15～11:45 季 増民（椋山女学園大）：上海都市圏における工業団地の造成と隣接農村の再編——東京都市圏との比較の視点から 〔総合討論〕 11:45～12:00 〔司 会〕 季 増民（椋山女学園大） 終了時刻 12:00
	昼 休 み	

第 1 日 目 3 月 20 日（火） 午前

第 4 会 場		第 5 会 場	開始時刻
〈都 市〉			
401*	白石喜春（金沢大・院）：事業所の立地動向からみた地方中心都市における業務機能の離心化現象		9:00
402*	鈴木孝典（北海道大・学）・沼田尚也*（北海道大・院）・橋本雄一（北海道大）：札幌市における分譲マンションの立地変化		9:20
		〈農 業〉	
403	中澤高志*（大分大）・川口太郎（明治大）・佐藤英人（東京大）：世代交代期にある郊外住宅地の変容と持続可能性	501* 王 岱（獨協大・院）：中国における生薬需要の地域格差と生薬専業市場の役割	9:40
404*	長沼佐枝*（早稲田大）・荒井良雄（東京大）・江崎雄治（専修大）：地方中核都市—福岡市における高齢化の進行と住宅地の持続に関する研究	502* 河本大地（学振特別研究員・広島大・院）：日本における有機農産物産地の分布と類型——立地・作物・認証・流通に着目して	10:00
405*	山田佳奈子（北海道大・院）：積雪寒冷地における高齢者の生活環境と居住地移動——北海道室蘭市を事例として	503* 松尾忠直（立正大・院）：群馬県富岡市における生シイタケ生産の展開	10:20
406*	深澤栄太（駒澤大・院）：市街地形成過程と人口高齢化に関する研究——東京都墨田区を事例に	504* 新井祥穂*（東京大）・大呂興平（近畿・中国・四国農業研究センター）・古閑喜之（台湾師範大・院）・永田淳嗣（東京大）：コショウラン生産の国際分業体制における台湾生産者の位置づけ	10:40
407*	岩間信之*（関東学園大・非）・田中耕市（徳島大）・佐々木 緑（東京大）・駒木伸比古（筑波大・院）・斎藤幸生（水戸短期大学附属高）：地方都市におけるフードデザート問題の現状分析	505* 篠原重則（松山大・非）：周辺農山村の地方中核都市への進出による農産物の直売事業——高知県佐川町と伊野町事例	11:00
408*	赤石浩美（駒澤大・院）：深谷市のまちづくりにみるオープンガーデン活動の役割	506* 星 政臣（筑波大・院）：新潟県南魚沼地域における農村観光行動	11:20
409*	山下博樹*（鳥取大）・堤 純（愛媛大）・伊藤 悟（金沢大）：イギリス・ノリッジ市におけるリバブル・シティへの取り組み	507* 永井伸昌（筑波大・院）：大都市周辺部における市民農園の展開とその意義——東京都練馬区を事例として	11:40
			12:00
		昼 休 み	

第 1 日 目 3 月 20 日 (火) 午 前

開始時刻	第 6 会 場	第 7 会 場
	〈地 形〉	
9:00	601* 石黒聡士* (名古屋大)・鈴木康弘・杉村俊郎・佐野滋樹：変動地形解析における高解像度衛星画像の利用の有効性 ― IKONOS と Quick-Bird を複合させた地震性地殻変動計測	
9:20	602* 鈴木康弘* (名古屋大)・坂上寛之・内田主税・石黒聡士・糸静線重点調査変動地形グループ：デジタル航測データを基盤とした活断層 GIS のコンセプトと成果 ― 糸静線活断層帯の詳細位置および地震動予測の基礎情報	
9:40	603 谷口 薫* (地震予知総合研究振興会)・鈴木康弘・澤 祥・松多信尚・渡辺満久：糸静線活断層帯中北部における変動地形および掘削調査(速報) ― 松本および塩尻付近の断層トレースの見直しとその意義	〈水 文〉
10:00	604* 熊原康博*・前杢英明 (広島大)・八木浩司 (山形大)・長友恒人 (奈良教育大)：ネパール極西部、高ヒマラヤ山脈を横切る活断層のスリップレート	701* 中山祐介* (法政大・学)・小寺浩二 (法政大)・清水裕太 (法政大・院)：阿武隈川上流域および釈迦堂川流域の水環境保全・再生に関する地理学的研究 (2) ― 小流域原単位法による汚濁負荷量解析を用いて
10:20	605 小荒井 衛*・佐藤 浩・宇根 寛 (国土地理院)：地震被害と土地条件との関係に関する GIS 解析	702* 五十嵐 誠* (法政大・学)・小寺浩二 (法政大)・清水裕太 (法政大・院)・中山祐介 (法政大・学)：島原半島の水環境保全・再生に関する地理学的研究 (III)
10:40	606* 千田 昇 (大分大)：考古学的史料による水縄断層系西部の断層分布	703* 小寺浩二* (法政大)・清水裕太 (法政大・院)・中山祐介 (法政大・学)・村上哲生 (名古屋女子大)・藤井智康 (奈良教育大)：チベット南東域の水環境に関する水文地理学的研究
11:00	607* 丹羽雄一*・須貝俊彦・大上隆史 (東京大)・笹尾英嗣 (日本原子力研究開発機構)：濃尾平野完新統の粒度・堆積構造・電気伝導度から見た AD1586 年天正地震・AD745 年天平地震	704 齋藤光代* (学振特別研究員・広島大学・院)・小野寺真一・宮岡邦任・陳 建耀・谷口真人・劉 貫群・福嶋義宏：黄河デルタ地域における地下水の硝酸汚染の現状および浄化機能の評価
11:20	608* 椿原京子* (東北大・院)・今泉俊文 (東北大)・三輪敦志 (応用地質)：逆断層の地表トレースと地下構造	705* 小野寺真一* (広島大)・小林未樹 (広島大・学)・峯 孝樹 (島津テクノリサーチ)・田瀬則雄 (筑波大)・齋藤光代 (広島大・院)：河川中の溶存窒素除去に及ぼす河岸過程の定量的評価
11:40	609* 今泉俊文* (東北大)・宮内崇裕 (千葉大)・原口 強 (大阪市立大)・島崎邦彦 (地震研)・椿原京子・佐々木亮道 (東北大・院)・Kamal Pahsa (東北大・研)・呉屋健一 (大阪市立大・院)：三陸沿岸の津波堆積物と歴史地震	706* 田瀬則雄* (筑波大)・吉田 顕・中野誠一郎・李 盛源 (筑波大)・小野寺真一 (広島大)・杉田 文 (千葉商科大)：樹木による地下水中の硝酸性窒素の自然浄化
12:00		707* 古田智弘* (東北大・院)・田村俊和 (立正大)・後藤光亀 (東北大)・岡崎清市 (東北大・研)・佐々木亮道 (東北大・院)：丘陵地谷頭での浸透―流出過程における土層の効果
	昼 休 み	

第 1 日目 3 月 20 日（火） 午後

第 1 会 場	第 2 会 場	開始時刻
シ ン ポ ジ ウ ム I 公開シンポジウム 災害からの復興 ——地域復興の意義と備え—— 〔オーガナイザー〕 遠藤邦彦（日本大）・中林一樹・鈴木毅彦（首都大）・青木賢人（金沢大） 開始時刻 13:00 〔挨拶〕 遠藤邦彦（日本大） 13:00～13:10 〔趣旨説明〕 中林一樹（首都大） 13:10～13:20 第Ⅰ部 災害からの復興 〔座 長〕 青木賢人（金沢大） S101 13:20～13:40 福留邦洋（新潟大）：阪神・淡路大震災の復興と都市構造の変容 S102 13:40～14:00 石原 肇（東京都）：三宅島火山災害における火山ガス対策と復興 S103* 14:00～14:20 長尾朋子（東京女学館）：平成 16 年福井豪雨災害からの復興と足羽川における伝統的治水工法の衰退 S104 14:20～14:40 南 慎一（北海道立北方建築総合研）：奥尻島津波被害からの復興 S105* 14:40～15:00 高橋 誠*・田中重好・田淵六郎・木村玲欧（名古屋大）：パンダアチェにおける大津波災害からの復興の課題 〔討 論〕 15:00～15:20 〔休 憩〕 15:20～15:30 〔特別講演〕 15:30～16:00 長島忠美（衆議院議員・元山古志村長）：山古志の復興 第Ⅱ部 地域復興の意義と備え 〔座 長〕 平井幸弘（駒澤大） S106 16:00～16:20〔コメント〕 中林一樹（首都大）：東京直下地震に対する事前復興対策 〔総合討論〕 16:20～17:00 終了時刻 17:00	シ ン ポ ジ ウ ム IV 時系列地理情報を使った 景観変化の研究 ——その展開と可能性—— 〔オーガナイザー〕 小林 茂（大阪大）・小荒井 衛（国土地理院）・長澤良太（鳥取大） 開始時刻 13:00 〔座 長〕 長澤良太（鳥取大） S401* 13:00～13:05〔趣旨説明〕 小林 茂（大阪大）：時系列地理情報を使った景観変化の研究——その展開と可能性 S402* 13:05～13:20 小荒井 衛*・河瀬和重（国土地理院）：国土地理院の国土変遷アーカイブ事業と景観研究へのデータの利活用 S403* 13:20～13:40 長谷川裕之（国土地理院）：旧版地形図・古空中写真の座標精度 S404* 13:40～14:00 鳴海邦匡（大阪大）：陵墓の景観変化 〔休 憩〕 14:00～14:10 〔座 長〕 小荒井 衛（国土地理院） S405* 14:10～14:30 長澤良太*（鳥取大）・伊藤麻子（プラトー研究所）：明治期以降の山林利用の歴史と植生景観の変遷 S406* 14:30～14:50 布施孝志（東京大）：旧版地形図にみる東京の地形改変の歴史 S407* 14:50～15:10 岡本勝男（農業環境技術研）：各種衛星画像を用いた土地利用変化の解析 〔休 憩〕 15:10～15:20 〔座 長〕 小林 茂（大阪大） 〔コメント〕 15:20～15:30 小椋純一（京都精華大） 15:30～15:40 スプレイグ，デイビッド S.（農業環境技術研） 15:40～15:50 江田敏幸（プラトー研究所） 〔総合討論〕 15:50～17:00 終了時刻 17:00	

第 1 日 目 3 月 20 日 (火) 午後

開始時刻	第 3 会 場	第 4 会 場
	〈行 政〉	〈海 外〉
13:00	301* 多田元信 (大阪大・院)：近畿地方合併市町の類型化と各類型の行政課題	410* 相馬秀廣* (奈良女子大)・出田和久・小方登・伊藤敏雄・于 志勇・覃 大海：中国タリム盆地の耕地遺跡とそこに残された沙漠化——米蘭、且末、輪台地区などを例として
13:20	302* 佐藤正志 (東京大・院)：地方自治体における公民連携手法の導入——えりも町、三戸町の包括委託を事例として	411* 仁平尊明* (筑波大)・コジマ・アナ・吉田圭一郎：ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の持続的開発と環境保全 (16) ——南パンタナール・エストラダパルケにおけるエコツーリズムの発展
13:40	303* 久木元美琴 (東京大・院)：大都市圏郊外における学童保育の変容——川崎市を事例として	412 中辻 享 (福島大)：ラオスにおける集落再編にともなう移住と生計活動の変化
	〈交 通〉	
14:00	304* 原野未来将 (筑波大・院)：住民意識とアクセシビリティを考慮した生活利便性評価に関する研究——茨城県つくば市を事例として	413* 中墓由佳里 (東京女子大・非)：拡大 EU 加盟後の山村集落の選択——ポーランドのカルパチア地域では
14:20	305* 奥井正俊 (宇都宮大)：ローカールスケールからみた乗用車保有率の地域差 1970～2000 年	414* 清水沙耶香 (横浜市立大・学)：トロントのイタリア系コミュニティの変遷に見るエスニシティの肯定的認識の可能性
14:40	306* 河原悠太* (島根大・研)・川久保篤志 (島根大)：高速道路沿線の過疎地域における人口変動についての考察——島根県石見地域及び広島県芸北地域を事例として	415* 木下礼子 (神奈川県立和泉高)：セカンドライン？——シンガポールで働く日本人未婚女性
	〈人 口〉	
15:00	307* 畠山輝雄 (神奈川県地方自治研究センター)：平成 17 年国勢調査の問題点と今後の対策	416* 遠藤幸子 (川村学園女子大)：ドイツの大都市における市街地の再開発と歴史的景観
15:20	308* 大関泰宏 (岐阜大)：スロバキアの人口アトラス	417* 方 大年 (久留米大・非)：中国、長春市におけるコリアタウンの形成
15:40	309* 鈴木 允 (桐朋中・高)：人口転換開始時期の地域差の検討——1920 年前後の愛知県の市郡別人口を用いて	418 中島直子 (群馬県立女子大)：オープン・スペース運動家オクタヴィア・ヒルと国会議員との交渉
16:00	310* 伊藤慎悟 (駒澤大・院)：神奈川県の間戸建住宅における年齢構成の差異	419 陳 瑛珣 (僑光技術学院)：中国貴州における少数民族と漢民族との通貨経済システムに融合する過程について
16:20	311* 春原麻子 (東京大・院)：縁辺地域集落へのライフスタイル移動	420* 小島泰雄 (神戸市外国語大)：中国四川農村の場鎮調査から生活空間としての市場圏を考える
16:40	312 久高賢市 (大阪大・院)：少子化にともなう高校体育系部活動の空間変動——全国高等学校総合体育大会 (インターハイ) 山口県予選を例として	421* 高原浩子 (京都大・院)：モンゴルの村落地域における日用消費物資の流通——ドルノド県の事例
17:00		

ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の持続的開発と環境保全(16)

— 南パンタナール・エストラダパルケにおけるエコツーリズムの発展 —

Sustainable Development and Environmental Preservation in the Pantanal, Brazil (16):

Growth of Ecotourism at Estrada Parque in the Southern Pantanal

100193

仁平尊明* (筑波大学), コジマ・アナ (マトグロッソドスル連邦大学), 吉田圭一郎 (横浜国立大学)

Takaaki NIHEI* (University of Tsukuba), Ana Y. KOJIMA (Universidade Federal de Mato Grosso do Sul),

Keiichiro YOSHIDA (Yokohama National University)

キーワード: エコツーリズム, エストラダパルケ (パンタナール公園道路), 南パンタナール, 環境問題

Keywords: Ecotourism, Estrada Parque (Pantanal Parkway), Southern Pantanal, Environmental Issue

熱帯湿原特有の豊かな動植物相を有することで知られるブラジル・パンタナールでは、1990年代からエコツーリズムが盛んになり、とくに欧米から多くの観光客が訪れるようになった。エコツーリズムのブームにともなって、ファゼンダの観光化や大規模なホテルの建設が進行し、生態系へのインパクトや住民生活の変化などの地域問題が顕在化した。本研究では、南パンタナールのエストラダパルケ (パンタナール公園道路) を対象として、宿泊施設の立地展開に注目することから、パンタナールにおけるエコツーリズム発展の課題を考察する。調査を実施した時期は、2003年8月、2004年8月、2005年3月、2005年8月、2006年8月であり、調査の内容は、宿泊施設の経営者や管理者への聞き取りである。

研究対象地域 南パンタナール (マトグロッソドスル州) のエストラダパルケは、北パンタナール (マトグロッソ州) のトランスパンタネイラと並んで、ブラジル・パンタナールにおいて観光開発が最も進んでいる地域の一つである。エストラダパルケは、ボリビアとの国境にある大都市・コルンパの南から湿原に入る未舗装の道路である (Fig.1)。パラグアイ川の渡河点であるポルトダマンガからクルパドレイキまでは東西に走り、クルパドレイキから連邦道路262号線沿いのブラーコダスピラーニャスまでは南北に走る。総延長は120kmであり、ミランダ川、アポーブラル川、ネグロ川などの主要河川とその支流の上には87の木橋が架かる。

宿泊施設の分布 トランスパンタネイラ沿いとその近隣

には、19の宿泊施設が立地する (Fig. 1)。そのうち、スポーツフィッシング客を主な対象とする釣り宿は6軒 (サンタカタリーナ、パソドロントラ、タダシ、パルティクラ、カバーナドロントラ、ソネトゥール)、エコツアーを提供する設備が整った大規模なホテルと民宿が3軒 (パルケホテル、パンタナールパークホテル、クルピーラ)、既存のファゼンダが観光化したエコロッジが5軒 (ペーラピスタ、アララアズール、サンタクララ、シャランエス、リオベルメーリョ)、キャンプ場または素泊まりの安い部屋を提供する民宿が3軒 (エキスペディシオンズ、ポアソルテ、ナトゥレーザ)、そのほかに、ホテルに付随した観光ファゼンダ (サンジョアオン) と大学の研修所 (UFMS) がある。

宿泊施設の開業年 1960年代と1980年代に開業した宿泊施設は、5軒が釣り宿であり、そのほか、民宿、研修所、キャンプ場が1軒づつある。1990年代に開業した宿泊施設は、ホテルが2軒、釣り宿が1軒、エコロッジが1軒である。2000年以降に開業した宿泊施設は、ファゼンダが4軒、キャンプ場などが2軒、ホテルの付随施設が1軒である。このように、エストラダパルケの宿泊施設は、1980年代以前には大河川沿いの釣り宿、1990年代には大河川沿いの大規模なホテル、2000年以降には河川から離れたファゼンダとキャンプ場の開業に特色がある。

エコツーリズム発展の課題 世界遺産にも登録されたパンタナールは、観光地として有名になり、観光によるバブル経済を引き起こしている。1990年代後半に宿泊施設を開業した経営者は、1haあたりの土地を230~300レアルで購入した。2001年に開業した宿泊施設の土地購入価格は、350~400レアル/haであり、2003年になると730レアル/haまで上昇した。近年では、東部海岸の大都市や外国出身の地主が増加している。また、観光客が家族から個人の若者になったことも問題である。彼らの多くは、ボリビア、ブラジル西部、パラグアイ、アルゼンチンと移動するムッシレイロ (バックパッカー) である。

[本研究は、平成16・17・18年度科学研究費補助金「ブラジル・パンタナールにおける熱帯湿原の包括的環境保全戦略」(基盤研究B(2) 課題番号16401023 代表: 丸山浩明) の補助を受けた。]

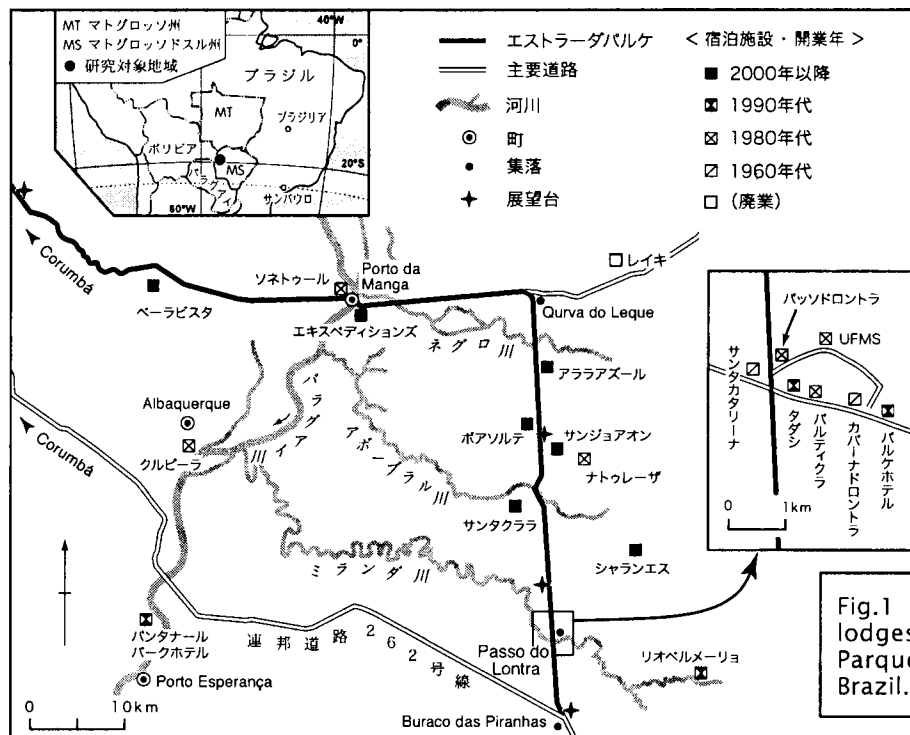


Fig.1 Distribution of hotels, fishing lodges and eco-lodges at Estrada Parque in the Southern Pantanal, Brazil. Source: authors' field survey.

日本地理学会発表要旨集 No.71

2007年3月10日発行（年2回発行）

編集・発行

© 社団法人日本地理学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号

学会センタービル内

電話 (03)3815-1912 FAX (03)3815-1672

振替 00140-6-12578番

E-mail ajgeogr@js6.so-net.ne.jp

URL <http://www.soc.nii.ac.jp/ajg/index.html>

印刷所 東京都新宿区高田馬場1-24-8
株式会社 カシヨ

《広告掲載会社一覧》

(広1) 朝倉書店

TEL 03-3260-7631
FAX 03-3260-0180

(広2) 日本地図センター

TEL 03-3485-5414
FAX 03-3465-7591

(広3) 帝国書院

TEL 03-3262-0830
FAX 03-3234-7965

(広4) 東京カートグラフィック

TEL 03-5303-8221
FAX 03-5303-8231

(広5) カシヨ

TEL 026-251-0510
FAX 026-251-0500

(広6) 海青社

TEL 077-577-2677
FAX 077-577-2688

(広7) 古今書院

TEL 03-3291-2757
FAX 03-3233-0303